
月の記憶 後篇

kaguya

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の記憶 後篇

【コード】

N9664Y

【作者名】

kaguya

【あらすじ】

「月の記憶 前篇」が事件編で、後篇であるこちらは解決編ということになります。

前篇はまだ完結していませんが、こっちもちょくちょく更新していきます！

竹取の氏族01（前書き）

月代さかやきの一族編はモロに竹取物語が舞台になっています。
原文のイメージは崩壊しています。ご注意ください…。

この物語は竹取物語の固有名詞等をお借りしています。
当然フィクションです。登場する個人、団体：以下省略。

竹取の氏族 01

昔々或る処に、お爺さんとお婆さんが住んでいました。まあ、お爺さんってのは俺のことなんだけどね。

あ、お爺さんお婆さんといつても年寄りを想像しないでくれよ？
名目上だよ。

これラブコメだからさ、ラブ&コメディーだよ？ コメディーって喜劇、笑劇のことでしょ。まさかヨボヨボの爺さんが体張って笑劇とか……死ぬっての。

それに年寄り同士のラブ展開とか重要ないつしょ。
だから名前が“お爺さん”と“お婆さん”の、その二人のラブコメってことで一つよろしく頼むぜ。

俺と婆さんは一応結婚していることになっているのだが、如何せん綺麗でも可愛くもない婆さんだ。子供なんて出来やしない。そろそろ俺の仕事を継いでくれる跡取りが欲しいのだが。

黒髪ロングでおっとりしていてふくよかな女性 早い話、
ぽつちやりで髪が長くてほんわかした雰囲気の子 が美し

いとされるこの時代、俺の嫁こと婆さんはガリガリに痩せていて超クール、冷めきっている。しかもショートカットなんだ……困った話だぜ。

婆さん、艶々の黒髪なんだけどなあ……。あと一年間だけ髪切るの我慢してくれないかなあ……。

ちよつとだけ閑話を。

俺と婆さんが住むのは少し強い風が吹けば飛んでいきそうなボロ家で、しかも田舎過ぎて買物とか超不便。一家の大黒柱としては貴族さんが暮らす都の方に新しい家を建てたいと思っている、思っ

ているだけ。

かく言う俺、仕事は何をしているのかと言いますと、山に芝刈りじゃないよ？ 山に登って竹切って、それをいるんなものに加工して売るっていう……まあ、物作り屋さんだ。

この仕事は死んだ父さんから受け継いだもので、俺の父さんも、父さんの父さんから受け継いでいる。先祖代々続く竹取の、現在その氏族の長である俺としては、息子が欲しいと切に思う。

でだ、少し前に婆さんに頼んだんだ。

「俺たち結婚して長いわけだしさ、そろそろ……」

貴族さんたちのような煌びやかではなく、その辺に転がっていた布を縫い合わせただけのような着物を着る婆さんは

「ふんっ」

と鼻で笑い、

「やだやだ、これだから男は……本当に汚らわしい生き物だわ」
細い脚で俺を追い払う。

「エッチなことばかり考えていないでもう少し働いたらどうなの？
今月の食費が尽きそうよ？」

嫌な言い方して悪いけどさ、この時代はまだ男性優位なの！ わかる！？

が、婆さんに頭の上がないヘタレの俺は、

「うん……竹、刈ってくるよ……」

「はい、いつてらっしゃい。暗くなる前には帰るのよ」

「うん……」

正直、ヘタレな自分が嫌いになるよ。

まあ、なんだ。このように可愛げの欠片もない婆さんだが、飯食う時と寝る時は一緒じゃなきゃ嫌だと言い張る。そこがちよっとだけ可愛かったり……。

飯にもずつと二人で暮らしているわけだしな。好きだよ？ 婆さんのこと。

そろそろ閑話は終わりにして 。
俺と婆さんの、我ながら哀れむ貧乏生活に変化が訪れる。

その日、竹刈りにも行かず畳でゴロゴロしていた俺の腹部を、あろうことか婆さんが力いっぱい踏みつけてきた。
「ぐへえ！」

鈍痛に顔を引き攣らせていると、婆さんは着物の裾を手で押さえ、せつかく育てた野菜を食うクソ虫を見るような目で俺を見下す。
ちっ…。もう少しでパンツ見えそうなのに。

「あなたねえ、昼間から家でごろごろ、ごろごろと…。ニート？
ヒッキー？ 違うでしょ、さつさと山行ってきなさいよ」
婆さんは踏みつける足に力を入れながら俺を罵倒する。

「あふう…！ って痛い、痛い、痛い！ あっ…！ そこはっ…！」
「まさかあなた……………私に踏まれて悦んでいるの？ やだ、この人真性の変態だわ」

よ、悦んでなんかないやいっ！
「マジ……………痛いから……………婆さん、足どけて…」
「誰が婆さんですって？」
さらに足に力が入る。

「ごめんなさい！ ごめんなさい！ まだまだお肌プリップリですもんねっ！ 全然お婆さんじゃないです！ はい…！」
「そうよ、わかればいいの」
「ふう……………」

痛みから解放されてようやく一息だ。
「なに…その満足した後で一息つくみたいなもの……………少しばかり不

愉快だわ」

そう言って再び腹部を足の裏でグリグリ。

*

「ちゃんと働いてくるのよ」

「ういーっす」

「……だらしのない返事ね」

「行ってきます！」

「はい、いつてらっしゅい」

婆さんの虐めから解放されたのが夕方近く。もう日が暮れちまい
そうなのに山に行つてこいなんて…。

素人は山なめんよ！？ 蛇とか普通に出てくるから！ ちよつ
と気を抜いていると腕とかすぐ蚊の餌食だから！ 痒くなつてから
気付いても遅いからな！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9664y/>

月の記憶 後篇

2011年11月29日00時58分発行